

（ほう）こん

題字・清水英夫

GALAC・6月号・付録
2011年6月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03) 5379-5521 / FAX(03) 5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

2011年4月26日、4月理事
会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 丹羽委員長
・6月号が出来上がった。特集テ
ーマは「ケーブルテレビの地域力」。
地域メディアとしてのケーブルテレ
ビの役割にスポットを当てた。
結果的に、ケーブルテレビの作り
手の皆さんは地域メディアと言う
ことを日頃から考えていて、東日
本大震災のことに触れた原稿が多
かった。

・7月号はギャラクシー賞の発表
号。震災関連の企画として、吉岡
忍氏と石井彰氏(当会理事)の対談
を掲載する。お二人とも震災直後
から被災地に入って取材されてい
るので、被災地から見えたメデイ

アの課題ということで対談して貰
った。

表紙は、松重豊さん(予定)、パ
ーソンは衆議院議員の河野太郎さ
ん。河野さんは震災前から、反原
発の立場から発言されていたので
今回の件を含めてお聞きしたい。

・8月号は、ギャラクシー賞の審
査経過、贈賞式のレポート。表紙
は高良健吾さん。

・河野尚行理事より、自分も10
0本近いケーブルテレビ制作の番
組を見たが、やはりNHKや他の
民放とひと味違う素晴らしいモノ
で、大変的確な企画だと思うとの
発言があった。

◇選奨事業委員会 橋本専務理事
・小田桐委員長が欠席なので、若
千代わって報告する。お手元資料

(応募作品数一覧)のように、下期
そして年間を通じての今年の応募
作品数は、昨年を超えた。審査も
終了した。委員会の皆様お疲れさ
までした。

〈テレビ部門〉 上滝委員長
・4月24日(日)午前中月評会で3
月の月間賞を選ぶ作業をし、その
後下期の参加作品129本の中か
ら下期の入賞作品7本を選んだ。
更にその後、上期下期合わせての
入賞作品14本から大賞一本、優秀
賞三本を選んだ。

そして、特別賞にテレビ朝日「相
棒」、個人賞に「福山雅治」氏を選
んだ。選考経過の詳細な説明があ
った(略)。夕方6時頃までの長時
間選考であった。

・時間的には前日になるが、23日
(土)に「制作者と語る会」を開催
した。約150名の参加者で大盛
況裡に終了した。「ミエルヒ」の藤
村忠寿氏、「スジナシ」の小森耕太
郎氏にいろいろ参考になる話を熱
く語っていただいた。

〈ラジオ部門〉 桜井委員長
・ギャラクシー賞下期の選考を14
日と17日の2回に分けておこない、

「制作者と語る会」開催！

4月23日、ギャラクシー賞選奨事業委員会(テレビ部門)主催で、制作者と語る会「地域発
テレビ・エンタテインメント」を日本大学芸術学部にて開催。

登壇者は、北海道テレビ放送の藤村忠寿監督(ドラマ「ミエルヒ」)と中部日本放送の小森耕
太郎プロデューサー(バラエティー「鶴瓶のスジナシ」)。

定員の4倍もの申し込みをいただき、抽選になるほどの盛況でした！



中部日本放送の小森耕太郎プロデューサー



北海道テレビ放送の藤村忠寿監督



打ち上げにて出演者を囲んで



第5回マイベストTV賞グランプリ 投票スタート！

マイベストTV賞グランプリの投票がスタートしました。マイベストTV賞も第5回を迎え、賞として多
くの注目を浴びるようになりました。

年間グランプリは、毎月選出された候補作の中から、1本が投票によって選ばれるというものです。グ
ランプリに輝いた作品は、6/2(木)に開催される第48回ギャラクシー賞贈賞式で表彰されます。正
会員の方々のご投票があってこそ、この賞にふさわしい番組が選出できるものと考えております。

年間グランプリの投票は年に1度になりますので、正会員の皆さまもぜひ投票をお願いいたします。

マイベストTV賞プロジェクトリーダー・滝野俊一

19日に上下合わせた最終選考をおこなった。応募作品数は、上期31本、下期27本と若干減少した。震災の影響がどの位あるかと心配したが微減で安心した。

ラジオの場合は、上期下期でそれぞれ8本、計16本の入賞候補作品を選び、その中から8本の入賞作品を選び、そして、大賞1本、優勝賞3本を選ぶという形式になっている。

今回の特徴は、ラジオドラマの復権かと思われるくらいここ数年にはない多くの応募(10本)を頂いた。且つ力作・秀作が多かった。報道ドキュメンタリー部門は、次回に沢山応募されるのではないかと予想する。DJパーソナリティ賞は、J—WAVE「GROOVE LINE Z」のピストン西沢氏に決定。前記番組での震災報道が評価された一要素である(詳しい選考経過の説明は略)。

〈CM部門〉 五井委員長

・資料にあるようにCM部門下期は136本の応募を頂いた。約3週間CMが観られない状態が続いていたので心配だったが、ホッとした。大作揃いであった。

下期13本の入賞候補作品を選び、

上期の13本と合わせた26本から、最終選考をおこない、13本の入賞作品を選んだ。そしてその中から、大賞1本、優秀賞2本を決定した。ギャラクシー賞に相応しい作品を選ぶことが出来たと思っている。

・GALAC誌の毎月の批評に関する記事で、CMの写真を使用しているが、その利用課程の処理について提案があった。改めて検討することとした。

〈報道活動委員会〉 確井委員長

・4月16日に選考会をおこなった。

下期は12本の応募。入賞候補作品全6本から、大賞一本、優秀賞二本を選んだ。今回の特色は、上期入賞の内の何社かが下期に更に継続してやっているときちんと報告して下さったこと。強い意欲を持ってアピールして下さっている。更に特色として、選考の際に、事件報道の中で犯人または犯人と思われる人物をどう扱うか、扱っているかを議論してみたいという意見があり、更に震災報道も議論しようという例年以上に委員間の議論が白熱化した事がある。

震災報道は今の時点で検証することとは是非、可能不可能等も議論し、

☆ギャラクシー賞 マイベストTV賞☆

新年度4月の投票も始まります！

ギャラクシー賞マイベストTV賞4月度作品の投票を開始します。正会員の皆さまは、メール、ファクスでお知らせしますので、マイベストTV賞の投票にご参加ください。

リスト以外の作品を記入できる欄もあります。ご利用ください。

ウェブまたは携帯サイトから参加の場合は、正会員専用のユーザー名ID、パスワードを使って投票ページに入ってください。

正会員の皆さまのご参加をお待ちしています！

会議記録

「4月」……………

14日	(選奨) ラジオ「ドラマ・ドキュメンタリー」選考会
16日	(選奨) 報道活動選考会
17日	(選奨) ラジオ「音楽とエンタテインメント」選考会
19日	(選奨) ラジオ最終選考会
21日	出版編集委員会
22日	(選奨) CM選考会
24日	(選奨) テレビ月評会
26日	(選奨) テレビ選考会
27日	(選奨) ラジオ定例会

<お知らせ>

事務局内に無線LANを導入しました。会員の皆様は、ご自由に使用いただけます。パスワードが必要になりますので、詳しくは事務局・高橋までお申し付けください。

【出席】 音好宏、橋本隆、上滝徹也、藤田真文、丹羽美之、桜井聖子、五井千鶴子、碓井広義、滝野俊一、飯田みか、石井彰、入江たのし、兼高聖雄、河野尚行、嶋田親一、稗田政憲、中島好登

が最善か、出席全理事に意見表明を求めたいとのお願いをした。全員から、様々な意見の表明があり、それに対する賛成・反対の意見が出て議論は長時間に及んだ。

最終判断は、常務理事会が適当であるとの意見に全理事が賛成したので、最終的な処理は常務理事会に委任された。

◇次回以降の理事会日程

5月 5月24日(火)

6月 6月18日(土)

※総会も同日開催

新入正会員自己紹介

次世代のテレビ視聴動向を見据えて
志岐裕子

このたび、放送批評懇談会に入会させていただきました志岐裕子と申します。長崎純心大学助教および慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員をしております。私の専門は社会心理学、コミュニケーション論です。修士・博士課程を慶應義塾大学で過ごし、主にテレビ・オーディエンスの研究に携わってきました。近年では、特に若者を中心としたテレビの見方の変化に関心があり、主に大学生を対象に質的・量的調査をおこなっています。

最近では学生から「テレビは見ない」という言葉を聞くこともしばしば。でも彼らがTwitterで友達と盛り上がりつつあるのは、もとを辿ればテレビのネタだったたり…。テレビをこよなく愛してきた自分としては、なんとなく寂しいというか、腑に落ちないというか、複雑な心境です。これからの時代、人々の日常生活におけるテレビの役割はどう変化していくのか(変化しないのか)、若者の声に耳を傾けながら考えていきたいと思っています。よろしく願います。

者に対しての情報提供したのだが、その担当者は、シンポジウムに参加していて、セッション「ソーシャルメディアとジャーナリズム」にたいへん刺激され、災害時に放送局がソーシャルメディアをどう利用するかヒントとなったという。嬉しいメールであった。

◇マイベストTVプロジェクト 滝野理事

・年間グランプリを決める投票が25日から始まった。皆様も是非投票を。

◇その他

①ギャラクシー賞贈賞式の件 入江理事

・入賞作品も決まったので、更に入念に準備を進めたい。

・昨年までやっていた「宴」を「懇親会」と改称する。単に名前を変えるだけでなく、実質的に、全国の放送関係者の情報交換の貴重な場としていきたい。

・尚、ギャラクシー賞のトロフィーの件に関し、橋本専務理事より、この1か月は報告すべき進展はなかった、との報告があった。

②スパイダーの件 橋本専務理事
・前回報告したようにスパイダーを

使つてこの大震災に際し報道がどうなされたかを後々検証するためにも、可能な限り残すことに意義があるのではとの坂本理事の提案があり、事務局にも同じような発想があり、直ぐに着手した。その後、藤田常務理事から、法政大学でも同様なことを考えてスタートしたが、若干遅れてしまった点もあり、助けて欲しいとの申し出があった。放懇も始めていたが、始めてみると予定していた以上に、時間がかかる作業だと分かり、ギャラクシー賞選考の時期とも重なり苦戦していた。そこで、共同作業

として、協力することが良いのではと、橋本と藤田常務理事との間で話し合いをして合意に達した。両者が同等の努力・分担をすることと、本日実務を担当する責任者同士で打ち合わせを終えたところである。3月11日以降の、全局の朝・昼・夕方・夜のニュース番組のDVDを作成中である。

何時・誰が・どんなテーマで研究・検証されるか分からないが、それに耐えうる質と分量の素材を作っています。頑張っている事務局員に拍手を。(拍手)

③入退会の件 橋本専務理事
・入会 ラリー遠田さん、水流(つる)昌彦さん

退会 石井清司さん、四国放送、TVQ九州放送↓承認

④日韓中TV制作者フォーラムの件 橋本専務理事

・札幌にて開催の日韓中TVフォーラムの開催に当たり、運営資金の援助をJKAに申請してあったが、申請が受理された。いよいよ実務作業に入る。経理の作業が主になるので、またまた事務局は多忙となるが、頑張つて欲しい。

⑤ザ・ベストテレビ、ザ・ベストラジオの件 橋本専務理事

・ギャラクシー賞の発表も間近に迫り、今年も上記の件に関し、NHKから協力の依頼があった。昨年も格段問題もなく、意義ある番組なので協力させていただきたい。↓承認

⑥その他 橋本専務理事

・GALAC誌4月号の特集記事の中で本来使用すべき写真と違う写真を掲載するという事故があった。この事故の発生から現時点までの一連の経過について詳細な説明があった(略)。当会として、どのような対応

(5ページへつづく)